

お知らせ

🔔 弊社ホームページを一部リニューアルしました

今回は、I.B.MUSEUM SaaSの情報ページを拡充。博物館クラウドの効果を、事例に基づいて説明する連載も用意しました。分かりやすいイラスト付きですので、ぜひアクセスを。

www.waseda.co.jp/products/saas/



🔔 新博物館情報誌(?) 発行準備中

Coming Soon!

夏のダイレクトメールで告知いたしました弊社の新マガジン「MEX Magazine」を鋭意制作中！来月の発行を予定しておりますので、まだお申し込みでない方は、ぜひ弊社までご連絡を。

🔔 博物館支援のための新会社の設立を準備中

弊社では現在、博物館への支援サービスをさらに充実させるための新会社「株式会社ミュージアムメディア研究所(仮)」の設立を準備しております。詳細は追ってお知らせいたします。



弊社Facebookページの開設にあたって新しく作った専属キャラクターの皆さん。計5人います。

🔔 弊社Facebookページをぜひご覧ください

各方面から「作らないの?」とお問い合わせをいただいていた弊社公式Facebookページができました。スタッフが全国の博物館で見かけたこと、業界ニュースなど、学芸員の仕事に役立つ情報を配信していきます。



www.facebook.com/wasedasys
早稲田システム開発株式会社

MAPPS press

News Letter from MAPPS

頑張れ、ミュージアム。

2013.10

No.6



発行元: 早稲田システム開発 株式会社
東京都新宿区新宿5丁目3番15号
TEL.03-6457-8585 FAX.03-3351-1660
www.waseda.co.jp/

CONTENTS

📷 参加レポート
日本クラウドワーキンググループ
第15回 会合

📁 ミュージアムIT屋さん、現場を往く!
福島県郡山市 郷さくら美術館の試み

🕒 ミュージアムITトピック
複数館資料の一挙公開
2つの成功モデルケース

🖥️ I.B.MUSEUM SaaS 新機能プレビュー
合同サイトが簡単にできる!
複数館統合公開機能



参加レポート

ニッポンクラウドワーキンググループ 第15回 会合 平成25年6月4日(火)

少し前の話で恐縮ですが、東京・渋谷区で行われた「ニッポンクラウドワーキンググループ」に参加いたしました。上場企業から中小企業まで、主にクラウドサービスを展開するIT企業が集まり、意見や情報を交換する場です。

博物館の集まりや学界などにはお邪魔する機会も多いのですが、同業者同士の会合にはこれまで滅多に出席してきませんでした。いつもの仲間としての連帯感とはひと味違う「異域同舟」的な空気も感じ、個人的には何とも不思議な場所というのが第一印象でした。

会では、ゲストを招いて最新情報を報告してもらい、それについて活発な質疑応答が交わされます。「自分の職場で活かせるかもしれない」という期待感からか熱がこもった質問が多く寄せられ、時間切れとなるほどの熱気。新参者の私は圧倒されているうちに終わってしまったのですが、第二部の懇親会は打って変

わって和やかな雰囲気。ミュージアム専門という珍しいプロフィールを持つ当社は、自己紹介するだけで関心を持っていただくことができ、とても楽しく過ごすことができました。

印象的だったのは、「ユニークな商品やサービスを扱う会社は、世間で名の知れたIT企業だけではない」ということです。博物館業界に持ちこんだら面白そうな技術もたくさんありました。たとえば、ひとつのIDでまったく異なるシステムにログインできる「シングルサインオン」という仕組みは、収蔵品管理と財務系のシステムをまたいで使える環境を作れそうです。また、ディスプレイやプロジェクターを使った広告媒体「デジタルサイネージ」も、博物館には相性が良さそう。スマホアプリやネットショップの活用法なども、おおいに参考になりました。

私たちは、ITでミュージアムを支援する会社。そう考えると、世の中では広く活用されてい

ても、ミュージアムには「まだ持ち込まれていないIT」は少なくありません。もちろん、コストの問題もありますので、それをうまくアレンジして活かすことも、私たちのミッションになります。改めて、「博物館専門」という役割の重さに気付かされる機会となりました。

この会では私たちは新米ですが、これからも時間が許す限り継続的にお邪魔して、「ITの今」とミュージアムの皆様との橋渡しを続けていきたいと考えています。(U)



📝 編・集・後・記



ボランティアの思い、オックスフォード大学へ

私どもがお手伝いしています陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトの活動が、オックスフォード大学ピット・リヴァース博物館(Pitt Rivers Museum)の展示会で取り上げていただけたことになりました。

その関係で、実行委員長を仰せつかっている私は現地に赴くことに。20代のころ多少は得意だった英語も、いまやすっかり忘却の彼方。付け焼刃で通勤途中に英会話の本を読んだりしていますが、加齢を思い知って落ち込むばかりです。

それはさておき、文化財を大切にしたいという思いで2年以上も活動しているボランティアの心意気に、異国の人が感じ入ってくれたことは嬉しい限り。詳しくは、次号で報告させていただくことといたします。

ミュージアムIT屋さん、現場を往く！

地元のカフェと心の連携 郷さくら美術館の試み

◎ 互いの信頼関係が実現した美術作品の貸し出し

会津若松・鶴ヶ城の近くに「アドリア」というカフェがあります。おしゃれな外観が目引く建物ですが、中に入るとさらにビックリ。ゆったりしたエントランスホールに、まるで美術館のように絵画が展示してあるのです。

作品は、福島県郡山市にある郷さくら美術館のもの。実は、このカフェに直接貸し出しておられるとのこと。一般のカフェでも美術作品を展示するお店は、東京でもテラホラ見かけます。それでも、ここまで本格的なのはとても珍しいのではないのでしょうか。そこで、カフェを運営している会津土建株式会社の山口総務部長に、お話を伺いました。

きっかけは「トップどうしの人的つながり」

同社の社長さんと、美術館を運営するコマツ福島株式会社のトップの直接の話し合いから実現した、このサービス。カフェ側は「顧客サービスの充実化」を、そして美術館側は「作品の有効活用」を考えると役立つということで意見が一致して貸し出しが決定、カフェのエントランスに展示することになったそうです。

カフェのオープンは、約2年半前。店内にはケヤキの一枚板によるオブジェが中央に飾っており、お店全体を木のぬくもりが包み込むようなインテリアがとても印象的です。目の前に

あるバス停にも、カフェの外観と統一感を持たせた屋根を作っており、全体で「憩いの一角」という感じ。市の景観賞も受賞されたそうです。

エントランスにかけられている作品は3点。3か月ごとに入れ替えるそうで、季節に応じて色味やモチーフを考えながらチョイスしているとか。来るたびに作品が変わっていたら、カフェを訪れる楽しみが増えていいですね。

「たとえば、店が混みあってお待ちいただかなければならない時があっても、美術館で作品を鑑賞するような気分であれば、待ち時間も短く感じていただけると思うんです」と山口さん。その言葉通り、実際に、じっくりと眺める人も少なくなくて、手洗いを借りに店に入って、作品を味わって帰る…という人もいます。なるほど、もうすっかり地元のアートスポットなんですね、と感心しながら、山口さんと2人で改めて作品を眺めてしまいました。

それにしても、いくら信頼関係があるとはいえ、貴重な美術作品を民間のお店に貸し出すことは、少し躊躇することなのでは。そう思った

私は、貸し出し側の郷さくら美術館にもお邪魔してきました。

市民のため、そして「未来の大観」のために

同館は、オーナーが長い年月をかけてコツコツと収集し日本の現代作品を「一人でも多くの人に見てもらいたい」という思いで開館した美術館。温かみがあって、とても鑑賞しやすく工夫された館内は、カフェにも通じる「おもてなしの心配り」を感じました。

そういえば、カフェの案内看板には、「日本という国の美しさを、そして日本人の心を描き続けてきた日本画をこそ、次の世代へ伝えたい」という熱い思いが綴られていました。美術館の方にカフェについて何うと、「仲間と言うか、サテライトのような存在ですね」と笑顔に。この素晴らしい場所にこの素晴らしい作品ですから、きっと思いは伝わっていると思いました。

さて、同館では、今年の春「桜花賞展」という公募展を開催しました。このイベントは通常の公募展と違い、指名した作家に作品を制作し

てもらおうという形式で、出品作品は美術館がすべて買い取るになっています。

いきなり下世話な話になってしまいますが、きっと大変なお金がかかる話。展示会での収入でペイするどころか、大変な出費になるはずですが、それは、若い作家の育成、日本画という文化の継承と発展を、オーナーが本気で考えている何よりの証だと思います。私が市民だったら、きっと嬉しいだろうなあ…。

このイベントは、来年も開催する予定とか。さらに嬉しいことに、すでに作家の方々からの参加の申し出も殺到しているそうです。「この中から、『未来の大観』が生まれるといいですね」とおっしゃるオーナーの穏やかな笑顔が、とても印象的に残りました。

埋もれがちで新しい才能が、こうした人々の思いを受けてそしてその作品が、美術館だけじゃなくカフェでも展示されて、多くの人々に届いていく。本当に素晴らしい循環だと思います。こうした事例が全国に広がってくれたら、博物館にも新しい可能性が生まれるかも。

もちろん、諸般の事情によって、どの館でも可能というわけではありません。でも、美術館が「作品で」地域に貢献し、作家を育て、地域文化を育んでいくという構図は、ぜひ追い求めてみたいと思いました。

方法はまだまだ出てくるはず。感服するやら、考えさせられるやら…の一日でした。



郷さくら美術館の思いが伝わってくる、店内の案内板。グッと来る文面です…。

都心のカフェにも負けない洒落たイメージの「アドリア」外観。入り口前の街頭も含めて、トータルに施されたアンティーク風のコーディネートが小さなお城のよう。地元に住んでいたら、きっと行きつけのお店になるだろうなあ…。



アドリア 北出丸カフェ 会津若松市追手町4-28 北出丸館 1階 TEL.0242-27-3600
営業時間/平日・土曜10:00~18:00(L.O.20:30) 日祝10:00~18:00(L.O.17:30)

ご覧ください、この堂々たる佇まい。和と洋の共存だけでなく、古民家風の空間づくりにさりげなく利いた現代の薫りがセンスを漂わせます。なるほど、これなら美術作品を飾っても全然OKという印象。



【こぼれ話】コーヒー豆はオーストリアの「ユリウス・マインル」社のものを使用。何と世界最古の焙煎会社と言われているのだとか。

感銘を受けた名作(ホンモノ!)の前で、ゆっくりコーヒーやディナーを楽しむ…。店内には、都心でもなかなか味わえない贅沢な時間が流れます。週末にこういう空間で過ごせたら素敵でしょうねえ。



こちらは現代日本画が専門の郷さくら美術館。開館は2006年10月で、郡山に続いて昨年春に待望の東京館も!

郷さくら美術館
郡山 福島県郡山市長者一丁目6-16
TEL.024-927-1010
東京 東京都目黒区上目黒1-7-13
TEL.03-3496-1771
www.satofakura.jp



ミュージアムITトピック

複数の館の資料を一挙に公開

モデルケース1 埼玉県の事例

埼玉県では、平成17年～20年にかけて、県立博物館施設再編整備を行い、分野ごとに特化した博物館に再編されました。歴史・民俗系として歴史と民俗の博物館、考古・史跡系としてさきたま史跡の博物館及び嵐山史跡の博物館、自然系として自然の博物館及び川の博物館、そして美術系として近代美術館の、計5館です。

この中で、これまでひとつの館に混在して収蔵されていた考古資料や民俗資料などを種別ごとに分け、それぞれの分野をカバーする博物館に区分して収蔵することとなりました。館の再編だけでなく、収蔵資料についても再整理を実施し、新番号での登録や再配架が行われたのです。

県では、以前から配架場所が分かる写真入りのデータベースの必要性が認識されていました。しかし、資料数があまりに膨大であったため、手が付けられなかったそうです。これも資料収蔵再編が契機となって実施された事業です。

最終的に、埼玉県教育局の「彩の国教育情報化推進計画」の中に位置づけられたことで、一般公開を前提としたデータベース構築事業へと進むことになりました。

各館が収蔵する資料は、県民からみれば、すべて県が所蔵するひとつの資料群となります。こうした認識が「館を横断した統一したデータベース構築」の方向性を決定づけ、古美術、歴史、考古、民俗を対象とした統一するデータベース構築が進行して

いきました。データベースは平成23年にベースとなる形が出来上がり、そして平成24年度について公開へと至ります。

データベースの中身は、基本的に各館がすでに保有していたデータを統一した形に改変したのですが、写真の撮り直しや番号等のチェックなどを地道に進められたとのことです。

モデルケース2 多摩地区の事例

東京都多摩地区内に所在する市町村などが設置・運営する博物館及び関連施設で構成する「東京都三多摩公立博物館協議会」では、平成22年度からインターネットを通じた情報発信を進めています。

初年度はホームページの開設、次年度は加盟各館が所蔵する絵画や地図、写真などの歴史資料を高精細で撮影し、デジタル化の上でホームページ上で公開。これによって、各資料の美しい画像をネットで一元的に閲覧する環境を構築しています。

この事業は3か年の計画となっており、最終年度となる平成24年度は、各館10点程度の写真資料を横断的に検索できるシステムの構築・運用準備が進められたとのこと。「鉄道」や「街道」といったキーワードに対し、自治体の枠組みを超えて調べることができるサービスを目指し、積極的な情報発信体制を整備してきたわけです。WEBサイト→資料情報公開→横断的な検索サービスという3年の流れは、デジタル

いま話題の「複数館合同による情報公開サイト」は、どんなメリットをもたらすのか。埼玉県の4館統合データベースシステム、東京都のいわゆる「三多摩」エリアで実現した大型アーカイブシステムという最新事例について、その舞台裏をレポート。



アーカイブシステム構築の手順として理想的と言えるでしょう。

アーカイブシステムの検討・制作の間、プロジェクトチームは協会加盟各館に対し、アンケート調査を行ったそうです。独自のデジタルアーカイブシステムを所有・運用しているか、所蔵する写真資料の点数やデジタル化の進捗状況を聞いた上で制作請負業者選定のためのコンペを実施。決定した業者とともにWEBデザインやシステムの具体的な運用方法を決めていきました。これらの流れの中で、「三多摩」の地域性を活かしたコンテンツを実現できるアーカイブシステムの仕様が決定されました。「鉄道」「街道」に加えて「水系(用水、多摩川など)」、「崖線」といった検索項目を作成し、参加31館から寄せられたデータが複数自治体にまたがっていることを視覚的に明示するWEB画面を作成。三博協加盟各館が協力体制の上で運用していることがひと目で分かる充実したインターフェイスを完成しています。



埼玉県立歴史と民俗の博物館を中心とした4館合同の資料検索サイト。シンプルに、使いやすくまとまったサイトで、目的の資料をすぐに探し当てることができるのが魅力です。

埼玉県立博物館施設 収蔵資料データベース
<http://rekimin-database.jp/search/>

2つの事例を通して見えてくること

モデルケース1の埼玉県の事例では、公開による効果の以前に、まず館内業務が極めてスムーズになったという報告があがっています。収蔵資料がすぐに検索でき、画像を見ることができるようになったのは、実は以前も似たものがあつたとか。しかし、それは不完全な上に複数の人員による継続が困難であったとのこと。これを克服できたことが大きかったようです。また、ある館が他館のデータも閲覧できる点も見逃せません。

これらの環境変化によって、写真掲載や熟覧といった特別利用への対応も効率的に。これまででは、利用が有名な資料に集中する傾向が見られましたが、電話問い合わせを受ける際にデータベースを見るよう誘導すれば、さらに詳細な資料群を案内することが可能に。こうした積み重ねが、どの博



鉄道、街道、水系、崖線という4つのボタンにマウスを合わせると、それぞれを示す図が地図上にオーバーラップ。地域や年代で探すこともでき、さらに各館の資料を使ったWeb展覧会コーナーもある充実度です。

タマちゃんが見よう! 多摩の写真
<http://111.68.132.91/search/theme.html>

物館にどんな資料があるのかを少しずつ周知することにもつながりつつ、自然とサービスが洗練され、利用者満足も向上していくことでしょう。今後は、教育機関での活用促進も検討していくとのことでした。

後者は、制作と進行して実施された加盟各館へのアンケート結果が象徴的です。加盟31館のうち回答があった21館のうち、今回のデジタルアーカイブシステムの導入以前の時点で、独自システムを有していたのはわずかに約25%。また、将来的にアーカイブシステムの導入を検討している館も少なかった一方、デジタル化済みの古写真が数百点にのぼる館は多く、個別の財政や人員数の枠に縛られず足並みを揃えるのに絶好の機会となりました。

このアーカイブシステムが画期的なのは、三多摩地域の31博物館による合同事

業というスケールメリットを示すとともに、各館を取り巻く地域性まで伝達する仕組みを作った点でしょう。もともとインターネットは「組織などのしがらみを超えて情報を収集できる」点が大きな魅力ですので、自治体間の垣根を積極的に取り払うことは、大きな評価を集めるはず。たとえば民俗資料を検索した際、ほぼ同一の資料でも三多摩地域の中でバリエーションがあることに気付く機会を与えることにもなり、ひいてはWEB上の合同企画展などさまざまな可能性へとつながることでしょう。

2つの事例から分かるのは、複数館の合同による資料情報の発信は、互いにシナジーを生み出すということ。重要なのは継続性を持たせられるという点なので、今後の両サイトの発展に期待したいところです。

I.B.MUSEUM SaaS 新機能プレビュー

資料のチカラを引き出す 複数館統合公開機能

少しずつ進化を続けている博物館クラウド「I.B.MUSEUM SaaS」では、これまで、何度か大きなバージョンアップを行いました。そのたびに、館業務とデータのあり方を変革する機能を追加してきましたが、今日ご紹介するのは特にご注目いただいている機能です。

ひとつの館ではなく、複数の館が集まって、ひとつのWebサイトを通じて合同で情報を発信できる「複数館統合公開」機能。これを使えば、前ページでご紹介したような環境を一気に構築することができます。

インターネット上に「合同エントランス」を作る気分で

前ページでご紹介した2つのサイトは、複数の館が一つのWebサイトで資料情報を発信している事例です。使ってみると分かりますが、本当に便利なサイトです。

たとえば、中学生が「自分の街の歴史や文化について調べる」という宿題を与えられた際、市内に複数の博物館があり、それぞれが別々にデータを公開していたとすると、利用

者はいくつものサイトで検索しなければなりません。それが、市内の博物館施設すべて、加えて市の文化財課などまで一体となつてひとつのデータベースサイトで資料情報を公開していれば、「ここを見れば、我が街の歴史や文化の情報を調べることができる」と認識した利用者もブックマークしやすくなります。

I.B.MUSEUM SaaSでは、この便利な環境を実現できます。しかも、とても簡単に。データが揃っていないでも、最初は参加各館が数点持ち寄れば大丈夫。後で随時追加できるので、まずは公開準備に進んでしましましょう。

幹事となる館で、統合公開ページで公開したい項目を設定します。ここが唯一の注意点なのですが、同じ意味の項目でも、各館で呼び方が異なるケースがあります。「資料名」「名称」「作品名」といったようにいくつかの名称が混在する場合は、「美術館の【作品名】＝

統合公開ページの【資料名】」というように、互いを簡単に「翻訳」してあげる必要があります。この作業はマッピングと呼びますが、専用編集ページで簡単にこなすので、どうぞご安心を。

次に、公開用のホームページの画面デザインなど、細かい設定を行います。これも、簡単なキーボード入力とマウス操作で完了するので大丈夫。設定が済んだら、あとは実行ボタンを押せば、統合公開ページ、すなわち「〇〇市歴史文化情報データベース」が出来上がります。

このシステムのポイントは、それぞれの館が独自の項目体系で別々の管理を行っていても、「マッピング」ですぐに「翻訳」できる点。この機能が、各館統合しての公開をスピードアップしてくれるわけです。

2種類のサイトを同時に運営

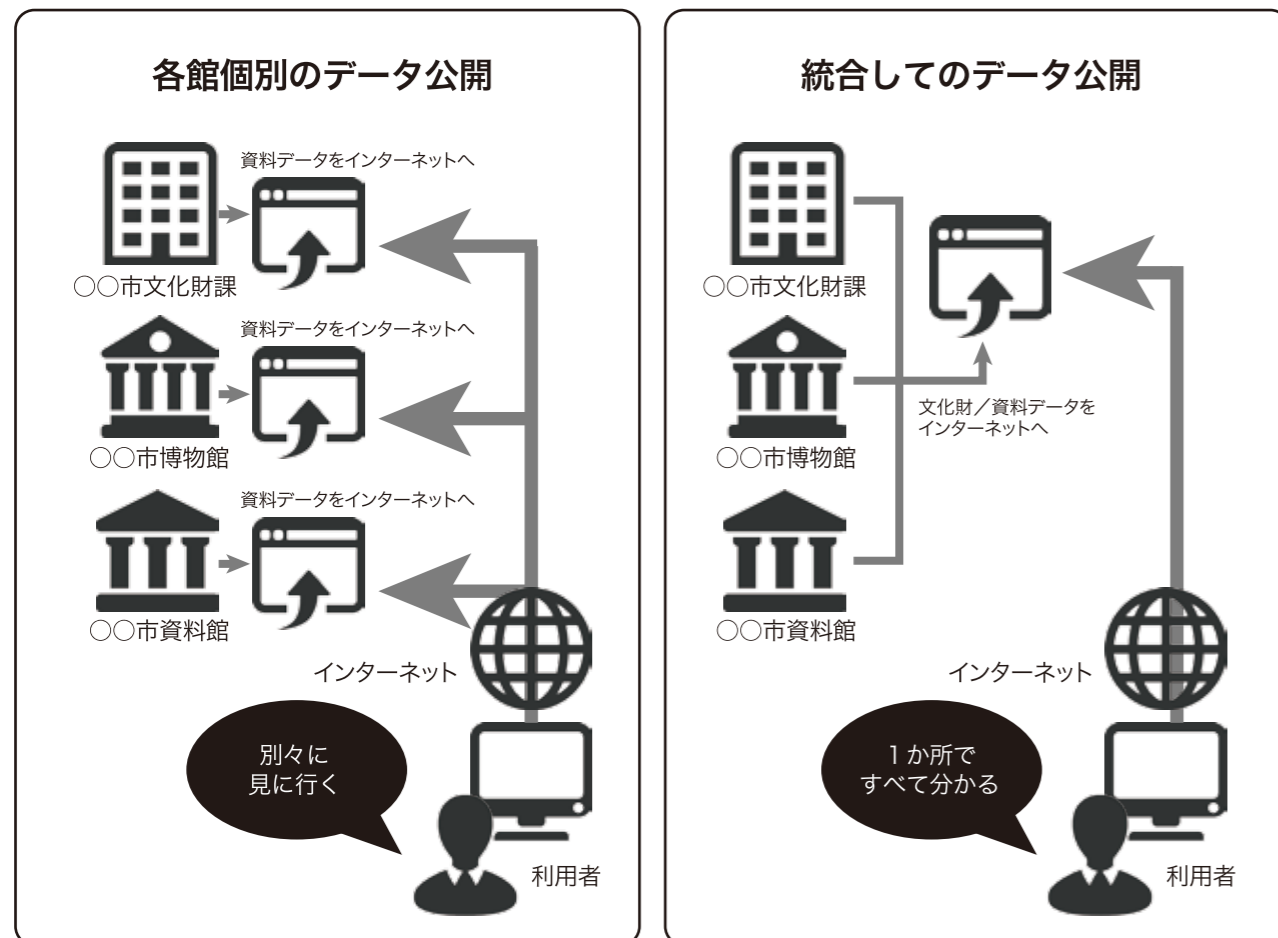
この仕組みは、実はもうひとつ、大きなメリットをもたらします。I.B.MUSEUM SaaSでは、ひとつのデータで「2つの公開用ホームページ」を作成・運用することができます。「片方を一般用、もう片方を子ども用」とか、「実物資料用と書籍用」、あるいは「日本語版と英語版」というように、2通りの公開サイトを作れるのですが、これを活かして「ひとつを統合公開用、もうひとつを館独自公開サイト用」という使い方もできます。

たとえば、幹事館が地域を代表する美術館の場合なら、教育現場を意識した親しみやすくかわいいデザインの統合公開サイトにデータを提供しながら、玄人好みのクールなデザインによる自館専用の公開サイトを作ることも可能。また、自治体の垣根を越えて利用することもでき、同じ作家を扱う違う地方の美

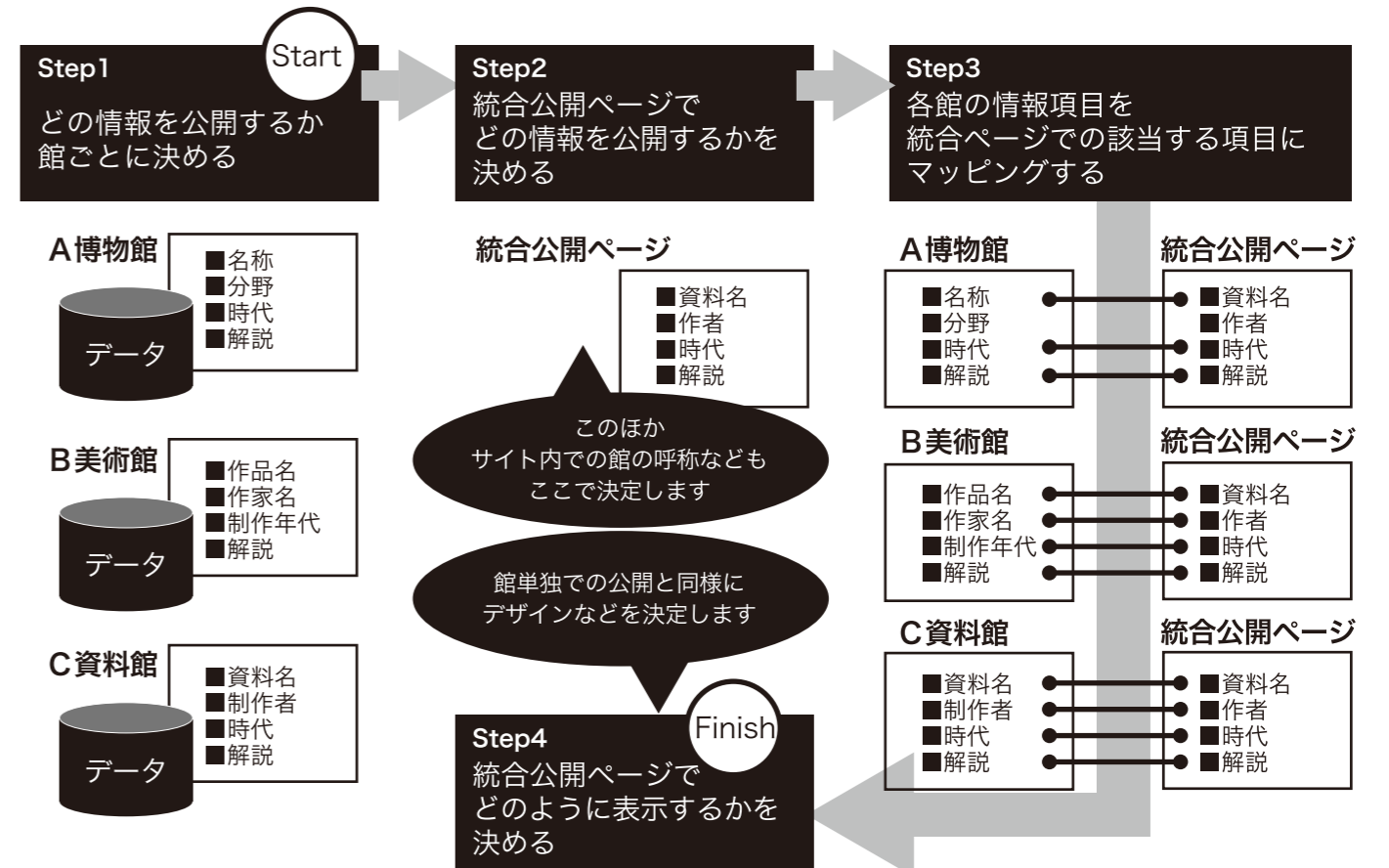
術館同士で、同じ人物を顕彰する歴史系博物館同士で統合公開機能を使えば、「その作家の作品全集的データベース」「その人物の資料集ホームページ」を作れることもできます。これは、新たなPR手法の開発にもつながるのではないのでしょうか。

そのほか、ある作家の作品を所蔵する美術館同士が作品を出し合って巡回展を行う場合などに、特定の作家の作品だけの合同データベースを展覧会開催記念と銘打って公開することも可能。期間限定での開設もOKですので、展覧会のWEBプロモーションの一助に役立ちます。

このように、分野を超えて、地域を超えて各館が手を携えれば、資料が持つ本来のチカラを引き出すことが可能になります。1+1を2ではなく3にも5にもしていくために、ぜひご利用ください。



入り口が1か所になれば、利用者があちこちをさまようことも、ある館の情報を見落とすこともなくなります。



難しく見えるかも知れませんが、実際は簡単。本文に登場した「マッピング」は、バラバラに使っている「館内用語」を、Webサイト運営業務で使う「共通語」に翻訳する機能です。